

パーソナルカラーをベースにしたヘアメイク理論についての考察

— 個別に応じたヘアスタイルの実践的提案とその向上に向けて —

富金原 光 秀

Consideration of Hair-makeup Theories Based on Personal Color

— Toward Further Improvement of the Practical Suggestion Personal Hairstyle —

FUKINBARA Mitsuhide

キーワード：実践ヘアメイク教育、色彩学、パーソナルカラー

はじめに

パーソナルカラーについては、すでにさまざまな研究が進められており、歴史的に 1950 年代にアメリカに広まってから現代に至るまで体系化されてきている。ここ数年は急速な盛り上がりを見せているが、近年さまざまな分析や手法がある為に、アナリストそれぞれの分析や診断で行われているのが現状であり、信頼性に疑問も生じている。筆者自身は、パーソナルカラー診断についてヘアメイクやヘアカラーが顔と対比をなすものであると考え、顔の肌色を最重要視して考察していく。ただし厳密には肌の測定部位によっても数値は変化するので、確実性を求める事は出来ないが、コミュニケーションツールとして非常に効果的であり、理論上曖昧な部分を互いの会話のなかで補う相乗性を備えながら、結果的に、部分としての色彩アプローチと、トータルコーディネートとしての全体性を念頭に置きながら論を進めていく。そして更に、このパーソナルカラーをベースとしたヘアメイクの理論的な分析を行い、これまでの経験に基づきながらパーソナルヘアメイクとして体系的に捉えていく事を目的とする。筆者は、ファッションの学校においてファッションコーディネートの授業や、美容の学校においてヘアスタ

イリングの授業を行っている。ファッションや美容に関わる学生は「ファッションコーディネーター」「着こなし方」など衣服に対しては非常に興味・関心があり、ましてや十代後半～二十代前半の学生には特に顕著にその傾向が確認できる。ファッションコーディネーターや着こなし方は学生一人ひとりの個性が表現されることにその良さがあり、パーソナルカラーに関しての授業は個々に合ったコーディネートを具体的に提案していくことの魅力に定評がある。学校を離れて街をウォッチングし、人間観察することによってヒントや感性をも身につけていく学び方の自由度は、学生に特に興味や関心を喚起している。そのような実践性を備えた学習を学校の授業中で身につけていく場合は、個性の表現のまえに基本的な組み合わせ方や配色をはじめ、TPO に即した着用法などの理解が前提となり、そこを位置づけする必要がある。その理由には、パーソナルカラーは色彩理論や配色技法の基礎的知識を前提として、それを更に応用させたカラー理論を展開していくからであり、その技法には周囲の環境も含めた複合的な色彩配色が必要となり、結果的に社会性を伴うからである。このように筆者はパーソナルカラーの必要性については、日々感じているのだが、それは、現代の多様化され個別化や細分化が進行している状況と無縁でないと考える。流行などといった言葉もすでに死語になったかのように、美容やファッションの一極集中的ブームはすでになくなってお

り、それは、異業種にも同じ傾向として焦点化されている。ヘアカラーの現在の状況について、日本ヘアカラー工業会によれば、家庭で手軽に染められる泡状（ムース）薬剤等も普及し、カラーリングをする人の44%に及ぶ人々が自宅で個人的に染めていると報告している。〔毎日新聞：2010年4月29日（木）〕そこには、節約意識などが拍車をかけている現況がある。そのような流れの中で、相対的に高まっているパーソナルカラー、つまり個人を最大限に引き出すためのカラーマニュアルをあらためて考察し、捉えなおして、更には理論の中にヘアスタイル、メイクカラーを組み込んでトータルスタイリングとして体系化を試みる。それによって、美容、ファッション業界に携わる供給者にとっては、消費者に向けてカウンセリングなどをする際に、優しく分かりやすい説明と実践的な立証が可能となり、より高度なスタイル提案ができる。又消費者にとってもコーディネートが難しいと感じている人々や、うまくスタイリングできない人、そういったさまざまな消費者側のフラストレーションとなるものを解消していく効果が期待できる。

I パーソナルカラー概要

トータルスタイリングには、いくつかの要素があり、ワードローブと同様にヘア＆メイクは重要な要素のひとつである。多くの方はイメージチェンジや自己表現をする際に、ヘアスタイルやメイクやファッションといったツールを変化させる¹⁾。それは人とのコミュニケーションにおいて、はじめはその割合の多くが人の顔の表情や、外見など視覚情報から相手を判断することを誰もが感じ、認識しているからであろう。文化人類学者であるレヴィ・ストロースによれば「人間にとって髪や化粧はコミュニケーションの座であり、顔を隠してしまえば、正常な社会的コミュニケーションは中断される。」²⁾として、ヘアメイクは、個人の名前や社会的身分と同様に、個人にとっての社会的衣装であるとしている。つまり、ヘアメイ

クは、個人の位置を映し出す小宇宙である。そこでは、形態・色彩・素材感などをいかにコーディネーションするかが鍵になる。パーソナルカラーは、その中の色彩配色に焦点をあてており、個人の特徴を捉えながら大きく4つのカテゴリー〔スプリング・サマー・オータム・ウィンター〕に割り当て、分類し、ドミナントカラー（支配的）をベースにクライアントにとってベストカラー（セカンドカラー）をチョイスしていくビレンによって提唱された色彩理論である³⁾。

それではパーソナルカラー理論にこれまでの経験をふまえながら、新たにヘアやヘアカラーを加えて整理していく事とする。

図1はパーソナルヘアカラー理論を体系的に取り入れて図式化したものである。

1 肌色〔アンダートーン〕

日本人の肌色の色相は、10R～8YR（マンセル色相環）、PCCSでは4:rO～6:yOの範囲内に集中している。明度は9、0～5、0の範囲内、彩度は2s～5s、（PCCS）マンセルでは1、5～6、5の範囲内に集中している。

図2は、春夏秋冬の4つのいずれかに分類された個人の肌に適したファンデーションの色彩を示したものである。肌は生まれつきそれぞれがもつアンダートーンを決定づけるものである。皮膚科学的には、肌色を構成する要素に次の3つが挙げられる。

- ①：表皮の角質層からの反射光やそこに含まれるカロチン
- ②：ヘモグロビンとよばれる血液透視の色
- ③：皮膚色素であるメラニン色素

肌色は以上の要素により構成され、メラニン色素は、毛髪の色成分でもあり、メラニン色素の少ない皮膚は、皮下の毛細血管の血液の量が浸透して、赤みを表す。又カロチンの量が多いと、より黄みを増し、あるいは艶を増す傾向にあるとされている。肌色の測定は、以上のようにYR系の色相の中に、黄みがどれほど含まれているのか、あるいは、青みが含まれているか等によって診断

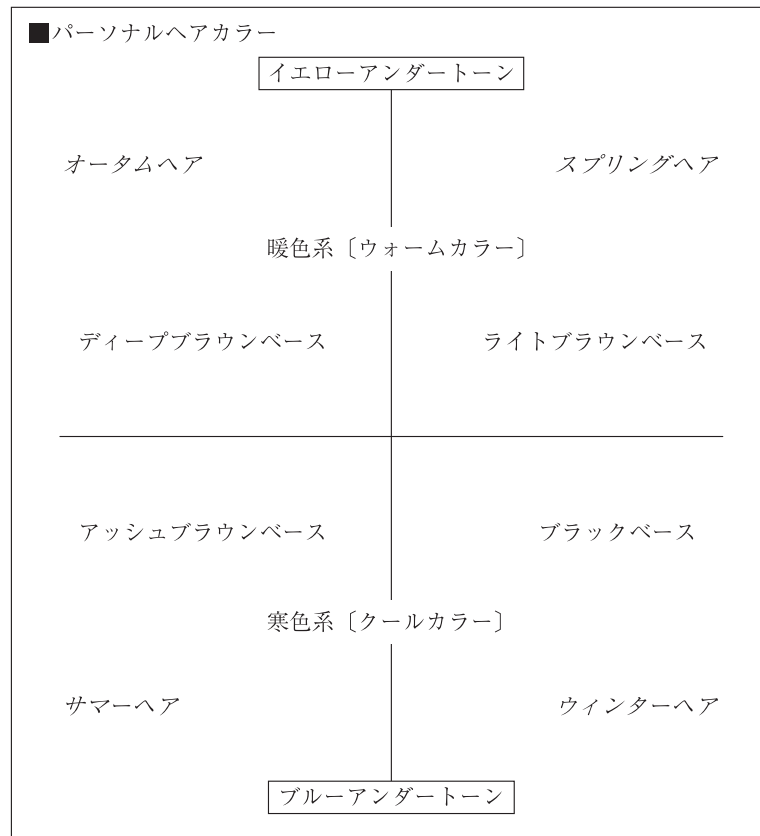


図 1

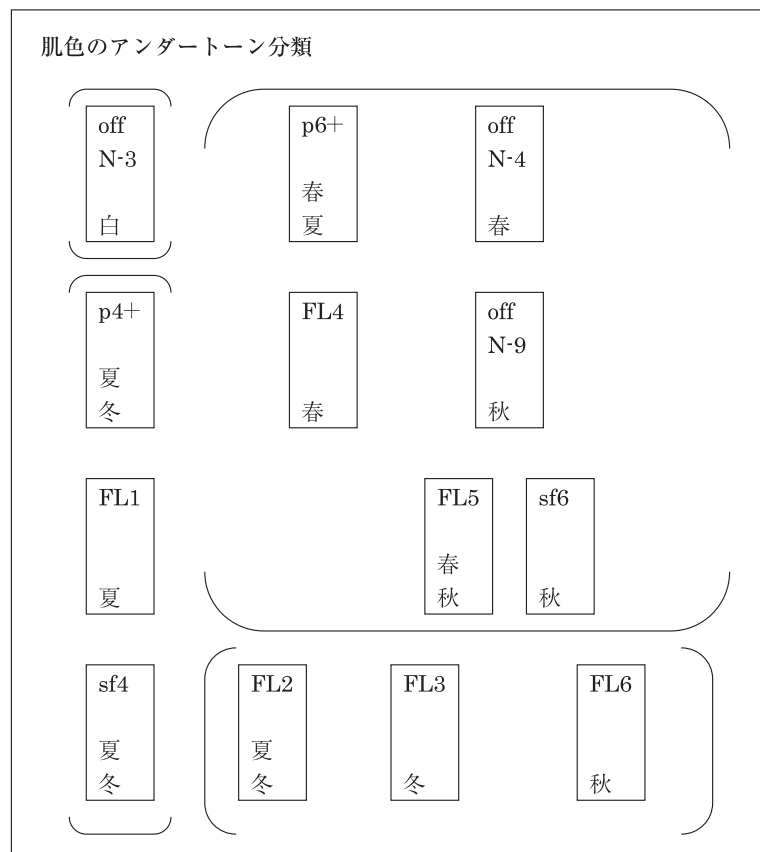


図 2

する。パーソナルカラーの理論上、肌色を黄みと青みという観点で捉えてみると、一般には、オークル系とピンク系（ローズ）とに分けられる。その際、区別の困難な肌は、中間色調としてナチュラル系とする。以上の分析は、ドレープを使用することにより、判断していく。そしてカラーアナリストは個人に似合うパーソナルカラーを診断する。

個人にとって似合う色彩（パーソナルカラー）、つまり調和する色彩を使用すれば、以下のメリットを期待できる。

- ①健康的かつ血色がよくみえる
- ②透明感や若々しさが見られる
- ③肌が滑らかやつややかにみえる
- ④顔の輪郭線が引き締まってみえる

それに反し似合わないと思われる色彩は、

- ①顔色はつやがなく、くすんでみえる
- ②ぼんやりし、疲れて老けた印象になる
- ③顔の輪郭線がぼんやりとしてみえる

カラーアナリストは、指定のドレープ等を使用して、色彩分析により、肌の色のアンダートーンや、外見のさまざまな要素によってクライアントに調和しやすい色の提案をより深い見地より行いアドバイスしていく。そして前述したように、肌色であるアンダートーンは大きく2つのカテゴリーに分けられる。ブルー系（ローズ）とイエロー系（ベージュ）である。それぞれを、ファンデーションの種類よりピンク系、オークル系とも呼んでいる。トータルバランスにおいて色彩を重要視する傾向は高く、メイクにおいてはファンデーションをはじめ、アイブロウ、アイシャドウ、チーク、リップと段階的に色を施し色彩調和をもたらしていく。それは、結果として自己表現であり、自己実現でもある。

それでは、具体的に4つのカテゴリーを整理し考察をすすめていく事とする。

2 タイプ別分析と考察

（1）スプリングタイプ〔イエローアンダートーン〕

PCCS トーン表では、明度が高いパール・ライ

ト・ブライトトーンをメインに使用し、キュートでかわいらしさのあるタイプであることが特徴。スプリングタイプの人はいエロー系で、春の明るい花や木々や葉にちなんで、イメージをつくりあげる。具体的な色彩としてライトオレンジ・サーモンピンク・シェルピンク・フレッシュグリーン・カナリーイエロー・アクアブルー・ライラックなど黄色がかった明度の高い色彩をワードローブに使用する。パーソナルカラーの強みとして、スプリングイメージの人がコーディネートする際には、イエロー系で明度の高い色彩を使用することを外さずに行えば、色彩的にワードローブで失敗する事はほとんどない。

①ヘアカラー（スプリングタイプ）

ヘアカラリングとは、ヘアカラーチャートを基本にして、明るさの基準すなわち、レヴェルスケール〔JHCA 日本ヘアカラー協会〕により自身の顔色にあった色相と明度を選定し、健康で美しいヘアカラーを表現することである。ヘアカラーについては、色彩理論と毛髪理論を把握することが必要不可欠であり、美容学生は色彩学や毛髪科学をはじめ、国家試験課題科目である物理、化学などを必修科目や選択必修科目として履修している。

ヘアカラーはファッションの一部であり、トータルコーディネートをつくりあげる大きな要素となる。肌質と同じように、髪も人によって髪質が異なる。黒や褐色、赤毛など一見して違いのわかるものもある。これは毛髪の中のメラニン色素の量によるものである。おしゃれ染めは、毛髪に含まれるわずか3パーセント以下程度のメラニン色素を、アルカリ剤と過酸化水素によって分解し、髪色を明るくして色調を変化させる技術である。一般に黒髪であるほど毛質が太く、撥水性の髪質であることが多いためヘアカラーの施術に時間がかかる。逆に茶色の髪は細く、吸水性がある髪質であり、時間もさほどかからずヘアカラーも入りやすい。この傾向はパーマネントウェーブを施術する際も同じことがいえる。

スプリングタイプの人の髪質は傾向として吸水

性の毛髪であることが多く、毛質も柔らかく、地毛も褐色、茶毛の割合が比較的多い。スプリングタイプに適したヘアカラーは、ライトブラウンベースの黄みや緑みのカラー剤を選択すれば、肌につや感を与える印象となる。赤みや青色などは、肌がくすむ傾向にあるので、なるべく控える。

②ヘアスタイル（スプリングタイプ）

スプリングタイプと分析された人に提案するヘアラインについては、丸いシルエットをベースにしながら、ボブスタイルやレイヤースタイルなどを取り入れる。細かいウェーブ等も取り入れ、リズム感や活発さを演出すれば、印象がよい。バンゲ（前髪）には丸さのあるカットライン、又ショートバンゲ等も似合う。

次にスプリングに合うメイクカラーを挙げる。

③メイクカラー（スプリングタイプ）

ファンデーション：あたたかみのある明るいオークル系

チーク：サーモンピンク等

アイシャドウ：明るい黄みやグリーン、オレンジ等

リップ：明るいオレンジ、ピンク等

このように、メイクやヘアーにおいても、イエロー系の明るい色調を重ねていくのは、パーソナルカラーの基本にドミナントカラー（支配的）を用いる事で、トータルバランスを実現することが目的であり、ワードローブを視野にいったカラーチョイスとなってくる。

（2）オータムタイプ〔イエローアンダートーン〕

PCCS トーン表では、明度の低いダーク・ダーク・ディープトーンをメインに使用して、シックな大人っぽさを感じさせる特徴をもちペイズリー柄などが似合う。オータムはダークイエロー系で、秋の枯葉や、もみじにちなんでカラーイメージをつくりあげていく。具体的な色彩としてモスグリーン・ゴールド・チョコレート・アンバー・ターコイズ・ヨークイエロー・トマトレッドなど黄色がかった明度の低い色彩をワードローブに使用する。又、蘇芳色や海老茶、鶯色など日本の伝統色が似合うのも特徴のひとつである。

①ヘアカラー（オータムタイプ）

肌は黄みがかったので、ヘアカラーも黄みが適切であるが、黄色に傾きすぎるとは、肌との対比に差異が生じるので、オレンジ、ダークブラウンを用いる。特に季節も秋に近づけばチェスナツブラウンなどを使用すると深い色彩によって印象も更によくなるため、カウンセリングの際に薦めることがある。また、ウィービングをする際などもディープやダークなどでトーンを変え、グラデーションで色の変化によってヘアーに奥行きや立体感を与えて髪の流れをだす事も効果的である。マッドな肌質である人が比較的多いので、メイクではコントロールカラーをさほど必要としないのが特徴である⁴⁾。

②ヘアスタイル（オータムタイプ）

ヘアラインについては、ミディアムやロングレングスの髪に前下がりベースとし、グラデーションやレイヤーを展開していく事で大人っぽさのある印象を提供できる。パーマメントウェーブは、大きめのワイルドウェーブに仕上げると効果も増す。

③メイクカラー（オータムタイプ）

ファンデーション：黄みのオークル系

チーク：ダークオレンジ、ブラウン等

アイシャドウ：ダークブラウン、オリーブブラウン等

リップ：ダークオレンジ、ブラウン等

（3）サマータイプ〔ブルーアンダートーン〕

PCCS トーン表では明度が高く、彩度が低いパステルトーンをメインに使用し、エレガントでやわらかい印象であることが特徴である。サマーは（ライト）ブルー系で、紫陽花などの花にちなんでイメージをつくりあげる。アール・ヌーボーの柄などが似合う。具体的な色彩としてソフトグレー・ピンクベージュ・ベビーピンク・ミントグリーン・ライトレモンイエローなど青色がかった明度が高く、彩度が低い色彩をワードローブに使用する。

①ヘアカラー（サマータイプ）

肌の色がピンク系なので、ヘアカラーに使用する

る薬剤は赤み（ローズブラウン）や、紫みや、アッシュなどの青みのある色を選択する。逆に黄みの薬剤を選定してしまうと、肌につやがなくなり、くすんでしまう。又多色使用のヘアカラーを用いる際は、ハレーションを起こすとやわらかさが失われてしまうので、セパレーション効果で多色を取り持たせるテクニックを用いるとよい。

②ヘアスタイル（サマータイプ）

ヘアラインは、オンベースのワンレングスや、前上がりのグラデーションなどが効果的である。パーマメントウェーブは、柔らかい緩めのソフトウェーブがよい。

③メイクカラー（サマータイプ）

ファンデーション：ピンク系等

チーク：ベビーピンク、ローズピンク等

アイシャドウ：パープル、ライトブルー

リップ：ベビーピンク、ローズピンク等

（4）ウィンタータイプ〔ブルーアンダートーン〕

PCCS トーン表では、彩度が高いヴィヴィッドトーンをメインに使用し、シャープでモダンな印象であることが特徴である。ウィンタータイプは、ブルー系で夜空の星、雪、クリスマスなどにちなんでイメージをつくりあげる。アール・デコの柄などが似合う。具体的な色彩としてエメラルドグリーン・ショッキングピンク・レモンイエロー・ホワイト・ブラックなど青色がかった彩度が高い色彩をワードローブに使用し、冷たい印象を与える。又黒髪にレッドやパープルなどのアクセントカラーとして太いラインを入れ、変化をつける事により、引き締めてみせるのもウィンタータイプに最も適した技術の手法である。

①ヘアカラー（ウィンタータイプ）

4 シーズンの中では、ブルーブラックなど黒髪を活かしたヘアカラーがよい。以上述べてきたことから明らかなように、ヘアカラーは肌の色とのバランスが非常に重要な要素となる。その理由として髪は顔の大部分を覆っており、肌の影響を受けやすいからである。その結果としてパーソナル

カラーをベースとした色彩の選定が必要となる。

②ヘアスタイル（ウィンタータイプ）

ヘアラインは、ワンレングスやグラデーションを取り入れ、ラインを出してシャープな印象に仕上げる。ヴィダルサスーンカットの技法や、シャギーなど直線的なラインが効果的である。

③メイクカラー（ウィンタータイプ）

ファンデーション：ピンク系のベージュ

チーク：ピンク、ブルーレッド等

アイシャドウ：グレー、ロイヤルブルー、青みのパープル等

リップ：ブルーレッド等

3 パーソナルヘアカラーを施す際の顔の形態と明暗の関係

本来多くの人の顔面には自然なハイライトがあると言われているが、さらに人工的にハイライトのヘアカラーを入れることによって、顔がすっきりとしたり、明るく元気に見せる効果をもたらす。全体に単色でハイライトを入れるよりも、それぞれのパーソナルカラーに即した色を何色か選定していくと更に効果的になる。イエローアンダートーンのウォーム系タイプには、ハニーやゴールドなどのハイライトを入れ、ブルーアンダートーンのクール系タイプには、アッシュなどのハイライトを入れる。その他、ローライトを上手に複合させることで、明暗による奥行きが生じて、色調と組み合わせることで、カットした毛先に動きが生じて質感をやわらかく感じさせる効果をもたらす。このように色相や明度の変化によって、更には錯視の効果も踏まえて、顔のバランスを調整していく技法を織り交ぜ、高度化したヘアスタイルを提案していくことが可能となる。

前提として、パーソナルカラーであるカラー剤を使用しながら、効果的なハイライト、ローライトを入れる施術法を顔の型を考慮に入れて考察していく。

①丸顔

トップにハイライト（→）をいれ、膨張効果で高さを出し、サイドにローライト（-）を入れる

ことにより収縮効果をもたらし、視覚認識上の錯視効果により、顔を細く見せる。特にオータムタイプの丸顔の人は、顔型を細長くみせたいのでハイライトにゴールド等をいれ、ローライトにイエロー系のダークオレンジやマッドなど入れると効果的である。

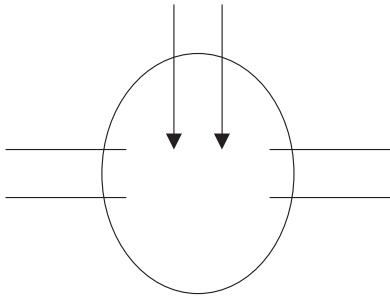


図 3

②四角顔

丸顔と同様の入れ方により、顔を小さく見せる。特にサマータイプの四角顔の人には、アッシュ等のハイライトをいれ、ローライトにブルー系のヴァイオレット等をいれて、やわらかい印象を演出する。又、毛量を調節してソフトウェーブに仕上げれば、さらにカラーによる奥行きがでて、エレガントな印象を与える。

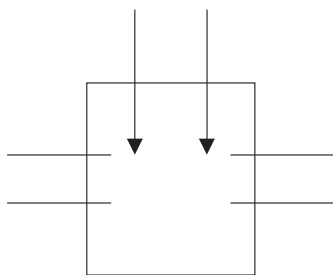


図 4

③長方形顔

丸顔や四角顔の入れ方とは逆に、トップにローライトをいれる事で収縮させる効果を用い、サイドにハイライトを入れ膨張させる。特にスプリングタイプの長方形顔の人はベースを明るめにして、ハイライトにオレンジやイエローグリーン等をいれ、ローライトにライトブラウンやダークオレン

ジ等をいれ、ソフトでキュートな印象に仕上げる。

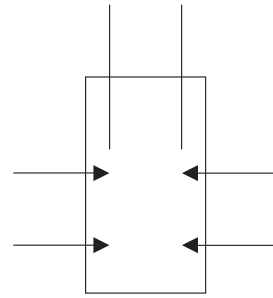


図 5

④三角形顔

トップにハイライト、サイドにローライトをいれる。三角形顔のタイプの人には春夏秋冬タイプを問わず、積極的にこのカラー手法を提案していく。

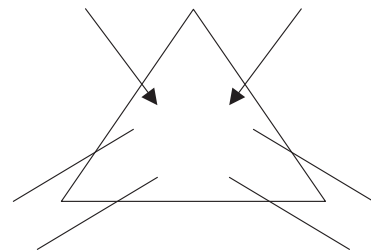


図 6

⑤逆三角形顔

トップにローライト、サイドにハイライトをいれ、顔を丸くする。スプリングタイプやサマータイプの逆三角形顔の人に積極的に提案していけば、効果的な演出が期待できる。

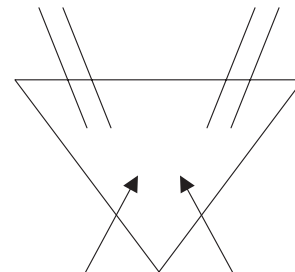


図 7

以下の写真は、筆者が美容学校において美容実習授業の中で、ヘアメイクフォトコンテストに出場する学生を対象に、パーソナルカラーをベースとしたヘアメイクスタイルを指導し、制作した作品である。



写真1 スプリングイメージ



写真2 オータムイメージ〔入選作品〕



写真3 サマーイメージ〔入選作品〕



写真4 ウィンターイメージ〔入選作品〕

写真1 スプリングイメージ

ヘアカラーに明度の高いライトブラウンを使用し、メイクはアイシャドウにイエロー系の色彩であるアクアブルーを使用し、シェルピンクをチークに使用した。ヘアスタイルはボブベースのカットで、やわらかく丸さをおびた印象に仕上げている。

写真2 オータムイメージ〔入選作品〕

ヘアカラーは明度を抑えたブラウンを使用し、メイクとアクセサリをディープトーンのパープル色で統一することにより、グラデーション効果を高めている。落ち着いた大人っぽさのある印象に仕上げている。

写真3 サマーイメージ〔入選作品〕

ヘアカラーに明度が高く彩度が低いソフトグレーとピンクベージュを使用している。メイクはブルー系の色彩であるローズピンク、ライトブルーを使用。ストールはシルバー、ヘアスタイルはアールヌーボーを想わせる柔らかいシルエットに仕上げており、エレガントさを強調している。

写真4 ウィンターイメージ〔入選作品〕

ヘアカラーは自然な髪色。アイシャドウにグレー、リップはグロスのみ。装飾にブラックやシルバーを用いている。ヘアスタイルを含め全体的にラインを強調し、シャープでモダンな印象に仕上げている。

以上の4作品は同じ型のウィッグを使用しているが、それぞれに個性のある表情や印象であることが確認できる。

おわりに

これまでのパーソナルカラーに関する文献や資料は色彩学的なアプローチがほとんどを占めており、ヘアメイクを主体とした美容学的な論文はほとんどないといっても過言ではない。その中で、

トータルコーディネートを体系化していく為に必要不可欠となるヘアメイクをワードローブとドミナントさせながら、色彩と形態を考察していく事とした。今後はこの研究によって明らかにした理論をいっそう具体化し、授業におけるカリキュラム開発を行い、実践的に生かしていくことのできるものへと発展させる取り組みを行っていく考えである。冒頭で述べたとおり、ファッションやヘアメイクはそれぞれの感性によって成り立つもので、厳密には確実性を求める事はできないが、美容業界やファッション業界にとって、また日々のコーディネートやヘアメイクが難しいと感じている人々に少しでも貢献できるように、研究を引き続き行っていきたい。

註

- 1) 本山光子『ファッション・スタイルプランニング』ファッション教育社、2000、pp.13-14
- 2) クロード・レヴィ＝ストロース『レヴィ＝ストロース』（椋田直子訳）、現代書館、1998、pp.122-123
- 3) 槇究・難波秋穂『日本色彩学会誌 VOLUME 31』日本色彩学会、2007、pp.244-245
- 4) 中根かつみ『日本色彩学会誌 VOLUME 31 SUPPLEMENT』日本色彩学会、2007、p.137

参考文献

- 1) クロード・レヴィ＝ストロース『悲しき熱帯』（川田順造訳）、中央公論社、1955
- 2) 太田昭雄・河原英介『色彩と配色』グラフィック社、1974
- 3) 林泉『ファッションコーディネートの世界』文化出版局、1995

（東萌ビューティーカレッジ専任教員 富金原光秀）